

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190300238		
法人名	九州メディカル・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム安心 とどろきⅡ		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1474番地2		
自己評価作成日	令和4年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年3月9日	外部評価確定日	令和4年4月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○介護福祉士の国家資格を保有する職員数は年平均70%以上をキープしており、質の高い介護が提供できる環境が整っています。</p> <p>○協力医療機関との連携により、ご利用者の健康管理や急変時の迅速な対応ができ、安心して生活して頂けます。</p> <p>○ご利用者が暮らしやすい明るく和やかな環境をつくるために、職員間の意見交換や共通認識、コミュニケーションを図る場を多く設けると共に、研修(内部・外部)勉強会等への積極的な参加を行い、職員一人一人のキャリアアップに努めサービスの質の向上を目指しています。</p> <p>○ご家族に安心して頂けるように、日々の生活状況の写真を撮って毎月送付したり、ホームページのブログに日々の活動をアップしたり、ご家族の信頼や安心を得られるように努めています。</p> <p>○ケアマネジメント業務に職員全体で取り組み、ご利用者・ご家族の意向に沿って、生きがいや楽しみを持って過ごして頂けるように支援を行っています。</p> <p>○施設内で生活リハビリを実施しており、ご利用者の自立支援に努めています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は多くの施設を所有し「安心とどろきⅡ」は令和3年6月開設の新しい事業所である。周囲は住宅、アパート、スーパーもあり交通量も多い。この地区は福祉サービスの需要が高く、利便性も良く、ホームの見学やケアマネジャー、病院からの紹介、電話の問い合わせも多くあり入居に繋がっている。開設当時は利用者も職員も戸惑いがあったが職員の努力と支援で落ち着いた生活が出来るようになった。職員は介護福祉士等の有資格者が多く、男性の職員も在籍し、質の高い手厚い支援が出来、心強く安定したホームである。事業所は「職員の連携、知識の向上」を目指し、利用者を大切にするように努めている。ベッド上で体重測定が出来るようになっている等、利用者や職員も負担が少なく安全で、健康管理に役立っている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の事業目的及び運営方針の唱和を毎日の朝礼時に行っている。また事業所独自の理念を掲示し職員間の意識の統一や意識向上を図っている。	理念は法人の理念を参考に職員と共に「いかなる時も利用者本位の運営を行い、人間参加の施設を目指す」と独自の理念を作成し、朝礼、カンファレンスの時に唱和している。職員は常に意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は施設周辺の散歩に出かけたり、お地蔵様のお参りに行ったりしている。定期的にドライブレクリエーションや外出レクリエーションを企画している。また地域の方から消防避難訓練や運営推進会議などにご協力を頂いている。今後は感染状況を踏まえつつ地域行事への参加や施設行事の際はボランティアを招いたりしていきたい。	町内会に加入している。コロナ禍で行事は行われていないが区長さんの声掛けで情報は得られている。天気のいい日は敷地内のお地蔵様、神社にお参りし、散歩もされる。近くに公民館や小学校があり、今後、子供と高齢者との交流も計画されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の際にはご入居者への支援の方法や施設の取り組み内容を具体的にお伝えしている。当施設のサービスを一方的に説明するのではなくあくまで地域貢献の為の情報共有を実践する立場を意識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催。ご入居者の状況や行事計画の報告を行っている。また勉強会の実施等も報告をしている。ご家族や行政からの意見を議事録として記録し改善に努めている。また地域行事等の情報収集、地域課題把握の場としても活用している。	運営推進会議は2か月に1回の実施であるが、コロナ禍の為集まる事なく、メンバーを中心に聞き取りを行い、入居者の状況や活動報告、勉強会、行事の内容等を書面にて作成し家族に郵送されている。これまでの会議では災害時の対応や避難について、コロナ感染に関する意見が多く、改善されて、記録に残されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加頂く等良好な協力関係を保つように努めている。今後は感染状況を踏まえつつ行政主催の研修会への参加をしていきたい。地域ケア会議、地域包括支援ネットワーク会議、自立支援会議等に参加をしていき、協力関係の構築に努めていきたい。	運営推進会議のメンバーに行政、民生委員の参加もあり、介護保険について相談出来ている。行政からの研修会にも参加し、地区の勉強会はリモートで参加している。職員にも伝達し、支援に活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を設置して定期的に話し合いの場を設けている。また勉強会を開催して職員の理解及び意識付けに努めている。今後研修会への参加を行い、更に知識を得ていきたい。	身体的拘束適正化委員会があり、3か月に1回研修会が行われる。日頃の言葉かけ、コミュニケーションが拘束になっていないか振り返り、意見交換して各自記録し常に気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での社内研修年間スケジュールを作成して高齢者虐待防止法についての勉強会を立案・実施している。管理者は職員のストレスケアに努め、個別の話し合いの場を設ける等工夫を行っている。また不適切ケアを正し虐待の芽を摘む視点を持って取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加していく。また研修に参加した職員は施設勉強会で発表報告を行い情報共有を図り、職員一人一人が理解していくための機会を設けていく。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約・改正時の際は説明を十分に行い理解・納得を得られるように努めている。質問等があれば随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に要望BOXを設置すると共に来訪者が見やすい場所に相談窓口の掲示を行っている。要望や苦情があった際は報告書をまとめる等行っている。	意見箱が設置されているが、苦情や要望は電話や口頭で聞いている。また苦情相談窓口がある事は入所時に説明され、家族に周知されている。コロナ感染防止の為面会が出来ないので、日々の暮らしの様子を写真に撮り、毎月の請求書と共に郵送している。家族はホームページのブログでも利用者の様子が確認出来て安心し、笑顔が見られて良かったと喜ばれ、楽しみにされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを実施して職員の意見や提案を管理者を含め参加者全員で話し合い、運営に反映できるように努めている。また課題がある場合はその都度話し合いを行い対応している。	会議は全職員参加で利用者の事、業務について意見が出る。管理者は意見に対し話し合いにより改善している。管理者は法人の会議で現状を報告し指示を受けている。3か月に1回職員の面談で意識も高まりケアに活かされている。カンファレンスの後に動画の勉強会があり、職員は報告書を作成し、管理者に提出し、知識の向上に役立っている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は同法人内の会議にて現状報告を行っており、現場職員の意見は随時代表者・取締役へ報告している。また質問や意見、改善提案等に関してもその都度話し合いの場を設けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は随時面談を行い、職員一人一人の力量を把握、希望時は資格取得のための支援を行っている。また、行政主催の研修会へ参加を今後促していきカンファレンスや自施設での勉強会で報告していく。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修会等に参加して同業者と交流を持ちサービスの質の向上に繋げていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学希望があった際は丁寧な案内と本人様からのヒアリングを心掛け、可能な限りご要望に応えられるように努めている。入居希望時には事前に情報収集の機会を設ける等安心して入居して頂けるように努めている。また必要であれば体験入居も受け付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居を希望されるご家族には、施設の運営規程の説明を十分に行うとともに、ご家族の不安や要望を伺い、良い関係を築けるよう努めている。またどのように過ごされているか等、様子を電話や面会時に報告、毎月写真を送付する等の工夫を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に収集する情報やご本人とご家族の意向を伺い必要であれば他サービスを取り入れた支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、掃除等家事作業をご入居の方々に参加いただき職員だけでなくご入居者の協力し合える環境作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとにはご家族を招待してご本人とご家族の交流を深めたりしていきたい。ご家族面会時はゆっくりお話ができる環境を配慮している。また積極的な情報提供に努めている。定期的に電話で近況を報告するなどして関係構築に努めている。必要時には外出、買い物支援を依頼することがある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人や知人の面会もあり毎月希望があれば買い物へ行ったり、天気の良い日は散歩や参拝をしている。また本人がやりたいことを聞き取りその実現に向けた個別の取り組みを行っている。	家族の協力で馴染みの美容院や買い物に行かれる事もある。生け花をしてリビングに飾ったり、舞踊が趣味の方は月に1回利用者に披露され自身の励みとされている。利用者の要望があれば家族や職員の付き添いで外出を楽しまれる。正月には自宅に帰られた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からレクリエーション等を通して入居者様同士が関り合える環境を作るとともに各々の居室を訪問し合ったり日常生活の中で職員が間に入り入居者様同士が支えるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や転居された後でもお便りを送付したりこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じて相談や助言等ができるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者それぞれに担当職員を配置し、ご入居者の思いや要望を随時確認できるように努めている。日頃の会話や表情からご入居者一人一人の想いを把握したり直接ご本人より聞き取りサービス担当者会議時に話し合い本人本位に検討している。	担当制で風呂や職員の夜勤時等ゆっくりした時に会話がある。日常生活の中で思わぬ行動や表情等から利用者の思いを知り記録に残し、意見を出し合い、その時に合った介護計画を作成し家族にも報告されている。家族との電話の取次ぎも行われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話だけでなく、ご家族からもご本人の生活歴、馴染みの暮らし等をお聞きし、これまでの暮らしを尊重した生活が送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者一人一人の現状把握や状況を些細なことでも日々の記録として残し、職員が把握できるように努めている。またICT化の申し送り事項を活用して細かな情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者それぞれに担当者を決めて、ケア会議等を行い新たな課題がないか検討すると共に、サービス担当者会議を定期的に行いケアのあり方について話し合いを行い、介護計画を作成している。また本人、ご家族の意向も確認し介護計画の作成に努めている。	利用者、家族の意見や思いを含め担当者の意見、記録、申し送りノートを参考に介護計画を作成している。期間中様子に変化があった際には利用者の様子や思いに寄り添い、介護計画を変更し、家族にも報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの中で気づき等があれば些細なことでも個人記録に記入し介護計画の見直しに活かしている。また職員間で情報共有が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のご面会時に話を聞いたりして対応が必要な事項についてはその時々で臨機応変に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にはボランティアの方々を招待してご入居者が楽しむことができるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合にはご家族の協力の下、継続して受診、往診ができるように支援している。また法人内には協力医療機関や訪問看護ステーションがあり、連携を取り適切な医療を受けて頂けるように支援している。	ご利用者全員がかかりつけ医である。往診は2週間に1回、歯科は訪問診療で対応。協力医とは24時間体制、訪問看護との連携も良く直ぐ対応出来、適切な医療が受けられるように支援されている。入院になっても早く退院出来るよう病院と情報交換し、家族の安心に繋がっている。月1回リハビリ、理学療法士等専門の方の来所があり、利用者の状況に応じてメニューを考えて支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察を行い、その内容についても訪問看護師と日常的に共有を図っている。異常があれば直ぐに担当医師・訪問看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際にはADL(日常生活動作)情報のみならず、施設での生活状況や普段の様子、支援するうえでやっている工夫等の細かな情報提供に努めている。また施設で対応可能な医療依存度やリハビリ機能を説明することでできるだけ早期に退院できるように情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族の希望を伺い、重度化や終末期についての希望、意見を確認している。ご入居者の状態変化に応じて随時意向を確認してご家族・主治医・訪問看護・職員が連携してご本人の望む支援ができるように努めている。	入居時に重度化や終末期に対する説明を行い、その時の思いを聞き、同意を得ている。利用者、家族の望む支援について勉強会もある。最後にこれで終わりではなく、これで良かったかと反省し、家族と繋がっていくように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時対応マニュアルを整備し事故発生時に実践できるように努めている。また入職者には必ず確認、説明することで誰でも初期対応が出来るように工夫している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防火チェックや年2回の消防訓練(避難・通報・消火)を行い災害時に迅速な対応ができるように職員へ指導している。また訓練の際には地域の協力が得られるように声かけをしている。	年2回夜間を想定し利用者と共に訓練を行っている。町内会の参加の案内は区長さんをお願いしている。訓練後に避難方法や消火器の使い方について消防署員から助言を受けている。地震対策のマニュアルを作成し、水害マップも掲示されている。管理者は年2回防火チェック表を作成し管理されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の人格の尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけるとともに敬意を表した対応を心がけている。また定期的に接遇の勉強会を開催している。職員にチェック表を記載してもらい、振り返りにも活用している。	定期的に法人と事業所で接遇の研修がある。管理者は面会の時に言葉使いや態度について接遇のチェック表を作成し、指導されている。写真は家族の許可を得てブログに載せている。机上に書類を放置しない等管理に気を付けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご入居者の話を伺いご入居者の希望や要望に沿った生活ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者の体調やペースに合わせ、その都度ご本人の意向を確認しながら希望に沿った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理美容の方に来訪頂きカット・カラー・パーマをご利用頂いている。またレクリエーションの一環で化粧の日を設けてお化粧したりマニキュアをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前には食器等の準備、食後の片付け、テーブル拭き等できる範囲の事は一緒に行っている。季節に合わせたお菓子作りを行ったりして一緒に食事を楽しめるよう支援している。	食材は外注であるがごはん、味噌汁は作っている。利用者に合った食べ易い形態に対応し完食されている。メニューの紹介や郷土料理の話をしながらか楽しく食べている。食が進まない時は好きな物、食べたいものを家族に尋ねたり、協力をお願いする事もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態や食事量を随時検討して一覧表を作成している。また水分・食事摂取量はICT化にてタブレット入力し栄養バランスが把握できるようにしている。摂取量が少ない方には高カロリー栄養補助食等提供出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご入居者一人一人に歯磨きの声かけを行い、状態に合わせた個別ケアを行っている。必要時は訪問歯科を利用して口腔内の確認を行っている。またマウスウォッシュを使用し清潔にも配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄の記録を行い排泄パターンを把握、オムツを使用しない工夫を検討してトイレにて排泄が行えるように工夫している。	排泄パターンに沿って誘導されている。利用者に応じてトイレ誘導し、自立して排泄出来るように支援している。夜間はポータブルトイレやセンサーマット使用の方もいる。排便については看護師からお腹の具合をみてもらい、排便コントロールを促し観察されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬には頼らず水分補給時には乳製品を提供する等の工夫をしている。また水分摂取量の記録を行い不足時にはその都度摂取して頂くよう声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、一人一人の体調を見て入浴日を変更したりその方に応じた入浴の支援を行っている。また入浴剤を使用するなど入浴を楽しめる工夫を行っている。	週2回午前中の中の入浴である。利用者の体調や気分に合わせて2人介助で支援されている。毎日湯張され入浴剤を使用する時もある。入浴出来ない時は足浴、清拭、シャワーで対応している。浴室はヒートショック対応され湯舟の底には滑り止めのシート、手すり、入り易いように椅子の用意もある。職員は利用者の好きな話を傾聴したり、歌が出る事もあり、ゆったりした時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者の状態に応じて休息を促している。自室で休まれるときは、室温調整や明るさの調整等行を行い、持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに薬情報(説明書)を挟みいつでも職員が確認できるようにしている。また内服薬の変更・追加時はその都度協力医療機関の看護師や薬局の薬剤師より説明を受けている。服薬介助する際は職員2名で確認して誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や能力に応じて出来ることを見極め、張り合いや喜びを持って生活できるように役割分担したり気分転換できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の買い物や外出については希望に沿って支援している。またご家族の協力のもと出かけられるように支援している。	これまでにはリフト車でドライブに出かけていた。利用者は家族の支援で近くの店でおやつや好きなものを買に出かけられ、楽しみになっている。敷地内に花壇を作り、利用者と花作りの計画をされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約上、原則として金銭の持ち込みは禁止しているが、例外的に金銭の自己管理が可能な方や希望者に関しては本人やご家族に確認の上所持が出来るようになっている。また外出時には所持金を使うことができるように必要な支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望・要望時には電話をかけたたり、手紙のやり取りができるように支援している。必要であれば職員がコミュニケーションの仲介をし、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、観葉植物を置いたりして居心地よく過ごせるような工夫をしている。またレクリエーションの一端で生け花をして頂き玄関を飾って頂いている。またトイレや洗面所、食堂等の共有空間の環境整備に努めている。	利用者は体操が好きな方が多くタオル、棒を使いビデオを見ながら体を動かしリハビリになっている。掃除は職員であるが、利用者も手伝いされる方もいる。リビングは快適に過ごせるように加湿器、温湿度計、換気も出来ている。植木やひな祭りも飾られ季節を感じる事が出来る。日めくりカレンダーは利用者の役目になっている。マスクの方も見受けられた。日々のレクリエーションは個人別、団体に応じて好きな事をする事が出来る。習字は写真にし家族に郵送され、作品はファイルに収め居室に置いてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを設置する等している。また空間を広く使用でき解放感を感じられるような家具の配置に努めている。簡易な椅子を設置したり他居室への移動を希望される際に移動の支援をする等それぞれ好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具等を持ってきて頂き居心地よく過ごせる工夫をしている。また定期的にご本人やご家族の意向を聞きながら必要な方には居室の模様替えを手伝っている。	居室は家族の協力、職員の手伝いで利用者が過ごし易い部屋づくりで整理整頓されている。家族の写真、タンス、棚、鏡台、衣裳ケース等持ち込まれている。ベッドは寝たまま体重測定が出来、快適に過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない造り、手すりの設置・時計・日めくりカレンダーの設置等、居室・共有スペースに工夫を行い必要に応じた環境づくりを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない